

太陽熱巡る坂道のある丘

街の「スローブリッキング」は熱を届ける



「スローブリッキング」でつなぐ街の新ネットワーク



■ソーラーエネルギー × バリアフリーのまちづくり

- ・ソーラーエネルギー × バリアフリー
- ・エネルギーのカスケード利用 × スローブ
- ・生み出す × つなぐ

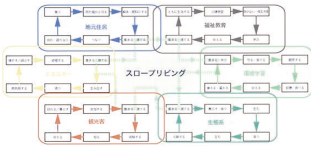
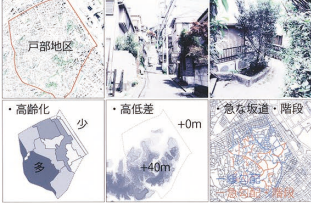
ソーラーエネルギーとバリアフリーを組み合わせた地域居住モデルを提案する。

敷地は、神奈川県横浜市戸部地区はみなとみらいに近接した丘陵地帯で、その地形によりアクセスが悪く、人口減少・高齢化が進んでいる。

そこで、丘陵地帯を市街地から孤立させることなく、現在ある緩やかな勾配の道をつなぎ、街全体をネットワーク化することを目指す。

エネルギーとバリアフリー問題を同時に解決する「スローブリッキング」は人々の活動や建物、エネルギーをつなぐネットワークであり、高齢者やまちの人々が生き生きと丘全体で暮らすことを楽しむ基礎となる。

敷地：神奈川県横浜市戸部地区（丘陵地帯密集住宅地）



■エネルギーリビング × スローブリッキング
ゆるやかな坂みちはコミュニティをつなぐ

- 1) 高齢者 × 学生

少子高齢化社会において、高齢者福祉施設といったビルディングタイプだけではなく、街全体が高齢者福祉に寄与するように空き家や既存建物を利用し、スローブでつなぐ。福祉を学ぶ学生と高齢者がともに暮らす街。
- 2) コミュニティ × リビング

学校、小規模多機能施設などのコミュニティの拠点をサポートするように多世代のコミュニティネットワークを、連続的な空間であり、地域全体のバリアフリーネットワークを促進する。災害時には一時避難場所として、防災拠点としても利用できるような計画される。
- 3) 生活基盤 × 防災 × スローブ

すべての人々が自由に丘全体を散策できる緩やかな道は、「熱のとおりみち」として中間期のような地域、開放的な外部空間を創出する。みちを歩いて暮らす人々は給湯や暖房の熱源としてエネルギーをシェアすることが可能。

■エネルギーネットワーク × カスケードネットワーク

- 1) 電力ネットワーク

丘の山頂で作られたエネルギーはふもとまで供給されていく。地域の山頂を拠点に分散的に配置されていくことで、災害時にも冗長性が高く、都市部など他の地域にも融通可能である。
- 2) 熱ネットワーク

熱のみは近接した建物へ給湯や暖房の熱源として利用され、余った熱は半外部空間へと段階的に利用される。（熱のカスケード利用）
- 3) 水ネットワーク

スローブとともに集まった雨水は、浄水層や貯水層に集められ、防災に役立てられる。
- 4) 交通ネットワーク

鉄道などの交通インフラを導入しにくい丘陵地帯ならではの都市インフラとしてのスローブは、お年寄りの徒歩生活を促すとともに、若い世代の自転車移動にも有効である。



■持続・継続可能な地域居住へ



災害時、都市からのエネルギー供給が途絶えてしまう場合もエネルギーを融通しあうことが可能な地域モデルである。日常で利用するスローブリッキングは、災害時の限も備蓄倉庫、エネルギー、避難場所があり、生活を継続するためのよりどころとなる。

